

AROの自立化への展望

— 研究開発エコサイクルの確立に向けて —

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構

医療イノベーション推進センター センター長

福島 雅典 先生

日時：5月29日(火) 18:00～19:00

場所：和歌山県立医科大学附属病院 中央棟4階 臨床講堂Ⅱ

■ 略歴

1973. 3. 26	名古屋大学医学部 卒業
1973. 4. 23～1974. 3. 31	名古屋第二赤十字病院 医員
1974. 4. 1～1976. 3. 31	京都大学大学院医学研究科 生理系専攻（医化学第一講座）
1976. 4. 1～1978. 3. 31	浜松医科大学 文部教官助手（生化学第一講座）
1978. 4. 1～2000. 3. 31	愛知県がんセンター病院 内科診療科医長
1979. 7. 23	京都大学医学博士（京都大学論医博 808号）
1980. 8. 27～1980. 11. 27	Visiting Assistant Professor, Baylor College of Medicine, Dept. of Pharmacology, Houston, TX, USA
1992. 4. 1～2000. 3. 31	京都大学講師、浜松医科大学講師（共に非常勤）
2000. 4. 1～2001. 11. 30	京都大学大学院医学研究科 薬剤疫学教授
2001. 12. 1～2009. 3. 31	京都大学医学部附属病院 探索医療センター検証部教授（薬剤疫学兼任）
2003. 4. 1～2009. 3. 31	財団法人 先端医療振興財団 臨床研究情報センター 研究事業統括（併任）
2003. 10. 1～2009. 3. 31	京都大学医学部附属病院 外来化学療法部長（兼任）
2009. 4. 1～	財団法人 先端医療振興財団・臨床研究情報センター センター長 （2018.4.1公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センターに名称変更）
2009. 4. 1～	京都大学名誉教授

■ 開催の要旨[講演者より]

本講演ではAMED「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」により、全国アカデミアのイノベーション創出15拠点（Academic Research Organization: ARO）で最先端の臨床試験、更に革新的新規医療機器・医薬品の開発がどのような形で進んでいるかを紹介するとともに、グローバルAROネットワーク構築の現状と展望について紹介する。

今やAMEDによる一元の一貫管理によって、アカデミア発シーズを臨床開発して企業に導出し、着実に薬事承認を取得して、新規の医薬品・医療機器を世に出す仕組みをもつに至り、膨大なR&Dパイプラインが確立した。そのR&Dパイプラインを俯瞰し、アカデミア発シーズを効率的にイノベーション創出につなげて、最も国民利益の大きな開発を戦略的に進めることも可能となり、疾病制圧の地平がくっきりと見えてきたのである。更に、わが国のアカデミア発シーズを海外に展開する仕組みとして、AROグローバルネットワークと疾患別グローバルネットワークの構築を進めている。国際的なリアルワールドデータの共有と疾患別レジストリの構築によって、臨床試験が益々加速され、疾病制圧に向けた Global learning health systemとしての実現を目指している。

■ お申し込みの方法～事前予約制～

受講希望の方は、crc@wakayama-med.ac.jpまでe-mailで申し込みをお願いします。

お申し込みの際には、氏名、職名、所属、連絡先をあわせてご連絡ください。